

大阪薬科大学広報委員会

サジオモダカ



サジオモダカの苗 (上海馬橋人民公社)

サジオモダカ *Alisma orientale* Juzepczuk (*Alismataceae*) 又はその近縁植物の茎、葉基及び根を除いた塊茎を澤瀉とよび、古来、停滞する体内の水気を下行させる効があるとして繁用されている。中国産澤瀉は四川省、福建省さらに、貴州省のほか各地で生産されている。また朝鮮産澤瀉も中国産澤瀉とともに需要も多くよく知られている。中国産は円形で分岐していないが、これは円錐形の分岐した不整形塊茎で、表面が多角的に削られ中国産とは形状が異なっている。日本では長野県などで僅かにつくられ、外形は朝鮮産に似るが表面は削られていない。澤瀉には形質の異なるものが産地によって見られ、そのすべてが原植物を同じくするかどうか判然としないが、近年日本でも中国産に似た分岐のない塊茎をつくる栽培法が研究され、原植物は同一種とも考えられるようになった。サジオモダカの生育分布は本州中部以北、朝鮮半島、シベリア東部、中国大陸と広範囲にわたっている。澤瀉の栽培法は各地によって多少の違いが見られるようであるが、先年上海馬橋人民公社でその一部を見学することができた。すなわち、播種は7月とし、水のはった苗床には日覆がされていた。9月上旬水田に移植、その後1~4次にわたり下肥、化学肥料を施す。地上部が枯萎するのをまち収穫する。塊茎は火で焙るなどの処置の

後に硫黄で燻蒸する。表面が淡黄色で重質を良品とする。

成分は Alisol A, B などとセスキテルペン、アミノ酸、カリウム塩、ビタミン類、糖類で、このうち Alisol A などは血中コレステロール低下作用があり、実験動物によって肝脂肪蓄積の抑制をみとめ、実験的尿毒症を改善し、人の尿量の増加、家兎の血圧と血糖の低下などが報告されている。澤瀉を配合する五苓散は口渇、利尿減少、はきけ、めまい、水瀉性下痢、浮腫、頭痛



サジオモダカ

など広く応用され、茯苓澤瀉湯など多くの方剤は水分代謝の調節に関係する。

同じ科の *Sagittaria* 属のクワイ *S. trifolia* L. ver. *sinensis* Makino は正月の料理によく知られているが薬用とはしていない。縄文晩期に水稻とともに伝来したともいわれ、また伝え聞く吹田クワイ *forma suitensis* も京阪地区で正月用に愛用したという。(太田長世)





ご挨拶

理事長 岡 本 道 雄

私は昨昭和63年6月より理事長に就任させていただいています岡本でございます。

もっと早く皆様にご挨拶申し上げるべきところを大変失礼申し上げます。

私の理事長就任は前理事長 森下 泰氏のご急逝によるものであったのであります。私と大阪薬科大学との御縁は古く昭和36年より昭和44年まで約8年でありまして、当時京都大学の解剖学の教授を致していましたのが、週1回解剖学講義のため非常勤講師として若い諸君に生物学と医学を中心として気楽にお話していたのであります。当時は尚50才そこそこであり、その幾年か前に米国からの留学を終え誠に元気一杯でありました。校風の為か学生諸君が大変真面目でかつ薬学をはっきり意図して入学して来られた為か熱心な態度で私の講義を聞いて下さったのが印象的で楽しい気持ちで毎週参ったのを覚えています。その様な印象がその後も強く残っていた為でしょうか理事長代行さんと学長さんや教授の先生が理事長就任を要請に来ていただいた時、自ら私立大学の理事長と言ったものが何をやるのかもはっきりせぬままにせっかく従来から尊敬申し上げている先生方が遠路おいでいただいたご好意も昔の思い出と重なり合って、もっと本格的に適当な理事長さんが見つかるまでとお引き受けしたような次第でありました。

先に申しましたように私は本来は解剖学、特に脳の解剖学の教師であります。脳の中にある神経細胞の群れやそれを相互に結び付けている神経繊維の走行を調べる仕事を一生やってきました一人の学徒でありました。それが京大がいわゆる学園紛争にまきこまれた頃から何の風の吹きまわしか奥田東総長から学生部長になることを依頼され固辞したのを3ヶ月だけでもと言われ就任しましたのが運命の別れ道と申しますか学究

から管理職へと転じてしまい、その後医学部長から総長と言った道を歩み昭和54年退官したのです。

その後請われるままに神戸市立中央市民病院長をお引受けした前後から総理府の科学技術会議の議員として、特別職の国家公務員として東京にすることが多くなっているのです。

この科学技術会議と言うのは政府の機関で総理大臣が議長、文部大臣、大蔵大臣、科学技術庁長官、経済企画庁長官の4人と日本学術会議会長と私ども民間人5人の総計10人から成る会議です。この会議に部会があってそこに学者が約100人程参加してこの国の科学技術政策の基本を審議しているのです。これが私の最も大きい仕事でしてそれと同様に目下は米国やカナダなどの科学技術協力協定の会議に加わって主な役割を果たしています。

それに神戸市立中央市民病院（1000床）の院長をしていますので日常は実に忙しく理事長のお役も充分果たしていないことを申し訳なく思っています。

従って特に薬学に特別な知識を持っているわけではありませんが科学技術一般については広く知識を集めていますのと、大学のみでなく政府の行政や実業界や政治家との交渉もありまして昔々京都大学にのみいました時より少しは社会も知っているかと思っています。しかし人間の性格というものがありまして、この種々繁雑な世界に住みつつも一向に賢くなりません。幸いにして体だけは健康でして、病院で精密検査をしますと尿も血液もレントゲンも超音波もCTもどこも悪いところはあります。ただ1つ記憶力が悪く何でも忘れますが、これは若い時代からであって化学と歴史が苦手だったのもそのせいであって年をとって悪くなったのではないと言って妙な自慢をしています。

何卒、皆様の御援助をお願い申し上げます。



新理事長をお迎えして

学 長 藤 田 榮 一

前理事長の森下 泰先生が昭和62年11月14日に逝去されましたのにもない、理事会は同年11月24日、大村栄之助理事を理事長代行に選出しました。昭和63年4月19日理事会は、故森下評議員の後任に、岡本道雄先生を評議員に選任しました。次いで同年5月30日の評議員会において岡本先生が故森下理事の後任として理事に選任されました。つづいて6月20日の理事会において岡本理事が全員一致で理事長に選任され、ここに新理事長として岡本道雄先生をお迎えすることになった次第であります。

岡本先生は大正2年にお生まれになり舞鶴市の御出身であります。昭和16年3月に京都帝国大学医学部を御卒業になり、同学部助手、助教授を経て三重県立医科大学教授（昭和26年9月）、神戸医科大学教授（昭和30年10月）、さらに京都大学医学部教授（昭和34年12月）を歴任されました。この間昭和31年から32年にかけて米国テキサス大学に留学しておられます。昭和45年9月には京都大学医学部長、さらに昭和48年12月には京都大学総長となられ、職責を全うされました。昭和54年12月任期満了により退任され京都大学名誉教授となられました。昭和55年5月からは科学技術会議議員として御活躍中で、現在も極めて御多忙な毎日を送っておられます。このほか昭和56年4月以来、神戸市立中央市民病院院長、昭和58年9月以来、厚生省医道審議会会長の要職を兼ねておられ、東京を主にして京都（御自宅がある）、神戸を毎週歴訪される御生活が続いているとおききしております。

また昭和56年4月から同59年9月まで総理府青少年問題審議会会長として青少年問題の対策に多大の貢献をされ、昭和59年9月から昭和62年8月まで臨時教育審議会会長としてその重責を全うされました事は、あまりにも有名であります。

岡本先生の極めて顕著な御功績に対し、昭和54年12月にドイツ連邦共和国から大功労十字章が、また昭和

62年11月に勲一等旭日大綬章が贈られたのは誠に宜なるかなと云うべきであると存じます。

以上先生の御略歴の一部を御紹介させていただきましたが、先生には上述のように公務極めて御多端な毎日を送っておられるにもかかわらず、今回学校法人大阪薬科大学の理事長御就任を快諾していただき誠に有難く、心から深く感謝いたしております。先生には昭和36年10月から同44年3月まで本学非常勤講師として生理解剖学、病理学の授業を担当していただき、そのため本学には特別な親しみを持っておられたと承っております。

新理事長をお迎えして、本学のすすむべき道に関して色々と御指導をいただくことができるのは、非常に心強く有難いことと存じます。臨教審の会長という立場から日本の教育に関する諸問題を広い角度から、また深く詳細に検討して来られた岡本先生から直接御卓見を拝聴し、それらを本学運営上のあらゆる面において積極的にとりいれることにより、よりよい大学へ発展させることができると確信し、大いに希望に満ちた思いであります。

岡本先生が科学技術会議議員として御活躍中のことは上述のとおりであります。承れば日本の科学技術全般にわたっての外務大臣のようなお仕事をなさっておられるようであります。広く世界各国とわが国との間での科学、学術研究、技術などの相互交流に関する諸問題に極めて密接に関係しておられるように承りました。学問研究、科学技術の国際化こそわが国現代の世界的な最重要課題の一つであると考えられます。広い国際的視野にたつて科学技術の問題を専門的に取扱っておられる岡本新理事長のスケールの大きさが、本学に大きな影響をあたえるにちがいないと確信いたします。岡本先生の御健康をお祈りし本学へのたえざる御指導を心からお願いする次第であります。



就職状況中間報告

就職部長 沼田 敦

本年度も例年通り4回生を対象として4月16日に就職ガイダンス、4月30日に志望職種調査(表I)、更に5月21日に本学卒業生による職種説明会を催し、就職活動に備えた。その後の学生諸君の就職活動により、現在までに企業、大学院進学および公務員志望者の大半が内定するに至っている、ここに報告し今後の参考に供したいと思う。

今年の求人件数は例年とほぼ同じであるが(表II)、好景気を反映して各企業の求人数が若干多いようである。

男子学生では企業および大学院志望者が大半を占め(表I)、それらすべてが現在内定しており(表III)、一部の病院と研修生の受験者を残して大勢が決定している。現在の内定者は91名で就職希望者の86.6%である。企業における医薬情報担当(営業)の内定者は例年30名程度であるが、今年は55名と大幅に増え、そのため、中小企業からの研究開発、学術、品質管理等の職種の求人に対応できなかったのが残念である。

女子学生については企業および病院志望者が群をぬいているが(表I)、年々病院より企業を志望する学生が増える傾向にある。企業では女子より男子を求める意向が強く、女子は就職活動でかなり苦労したと思われるが、女子学生の努力の結果結構多くの内定者が決定している(表III)。しかし、一方病院志望者が多いにもかかわらず、実際に受験している人が少ないように思われ、この先どうなるのか憂慮している。今のところ女子の内定者は76名で就職希望者の49.4%に当る。なお、大学院修士課程の学生の就職については各担当教員の紹介によりほぼ内定している。

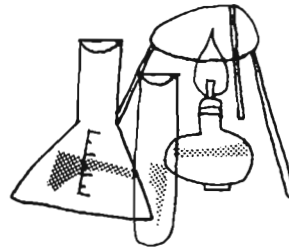
前述したように、女子の病院志望者が減少し企業志望者が増えつつあるが、もともと絶対数が少ない薬局や研修生志望者もまた減少しており、これは男子についても同様である。この原因として直接医療に携わる職種における勤務条件、待遇等が企業に比して格差があることが挙げられる。従ってこのような職種における待遇改善が望まれ、また直接医療に貢献しようとする熱意ある学生が育つ環境づくりが必要であろう。

(昭和63年10月31日記)

(表I)

就職志望状況(第一志望)(昭和63年5月19日現在)

区 分		男子	女子	合計	%
製薬会社	営業 管理薬剤師	48	6	54	20.3
	研 究	3	19	22	8.3
	学術・開発 品質管理	8	57	65	24.4
その 他 (化学・化粧品・食品)		3	6	9	3.4
販 売 業	小 売		2	2	0.7
	卸 売				
病 院	薬 局	11	46	57	21.4
	研 修 生	2	2	4	1.5
公 務 員	国 家	1		1	0.4
	地 方	4	7	11	4.1
大 学	職 員		1	1	0.4
	大学院(進学)	23	7	30	11.3
家業従事(薬局)		0	1	1	0.4
就職希望しない		1	5	6	2.3
未提出者		3	0	3	1.1
合 計		107	159	266	100.0



(表Ⅱ)

求 人 状 況 (昭和63年10月29日現在)

	会 社	病 院	販 売 業		公 務 員		研修生	* その他	計
	営 業 学 術	薬 局 臨 床 検 査	卸 売	小 売	薬 劑 師	臨 床 検 査 技 師			
求人件数	197	114	53	69	28		17	39	517
男 子	116	13	55	20				2	206
女 子	35	72	13	18				28	166
男女不問	453	182	128	204	107		115	113	1,302
計	604	267	196	242	107		115	143	1,674

*臨床検査センター、試験受託機関、コンピューター、出版、生命保険会社、予備校、生協等

(表Ⅲ)

就職内定状況 (昭和63年10月31日現在)

(1) 会 社

	医薬情報 (営業)		管 理 薬劑師 事務	研究開発 品質管理 学術			医薬情報 (営業)		管 理 薬劑師 事務	研究開発 品質管理 学術	
	M	F	F	M	F		M	F	F	M	F
	アイシーアイファーマ	2						東 宝 薬 品 工 業			
旭 化 成				1		東 洋 醸 造		1			
天 藤 製 薬				1		東 和 薬 品				1	
エーザイ	3					常 盤 薬 品 工 業					1
大 塚 製 薬				(1)		富 山 化 学 工 業		1			
小 野 薬 品	4					日 華 化 学				1	
科 研 製 薬				(1)		日 本 イー フ ィ リ リー	1				
片 山 化 学					1	日 本 シ ョー リ ン グ	1				1
カネボウ薬品	1					日 本 新 薬	1			(1)	
鐘 紡					1	日 本 商 事					2
環境保健生物研究センター				1		日 本 点 眼 薬 研 究 所					1
協 和 発 酵 工 業	2					日 本 電 気					1
グラブコスメチックス		1			1	日 本 ベー リ ン ガー イ ン ゲ	2				2
グ ラ ク ソ 三 共						ル ハ イ ム					
ク ロ レ ラ 工 業				1		日 本 メジ フィ ジ ッ ク ス	1				1
興 和 新 薬	1					バ イ エ ル 薬 品	4				
小 太 郎 漢 方 製 薬		1				ハ ウ ス 食 品 工 業				1	
澤 井 製 薬				1	2	藤 沢 ア ス ト ラ					1
三 共 堂	2					藤 沢 フ ェ イ ソ ン ズ					1
三 星			1			藤 沢 薬 品 工 業	1			(1)	4
参 天 製 薬				1	(2)	藤 本 化 学		1			
ザ ン ド 薬 品	1					藤 本 製 薬					2
シ オ ノ ギ 製 薬	3			(1)	4	扶 桑 薬 品 工 業	1				
而 至 歯 科 工 業			1			フ マ キ ラ ー					1
住 友 製 薬	2		1			ブ リ ス ト ル マ イ ヤ ー ズ					1
生 化 学 工 業				(1)		丸 石 製 薬				2	1
成 私 産 業					1	マ ン ダ ム				(1)	1
千 寿 製 薬					1	三 井 東 庄 化 学					1
高 砂 薬 業					1	ミ ド リ 十 字	2				2
武 田 薬 品 工 業	6				1	持 田 製 薬	1				

	医薬情報 (営業)		管 理 薬 剤 師 事 務	研究開発 品 質 管 理 学 術			医薬情報 (営業)		管 理 薬 剤 師 事 務	研究開発 品 質 管 理 学 術	
	M	F	F	M	F		M	F	F	M	F
	田 辺 製 薬	3					3	森 下 仁 丹			
第 一 製 薬	1					ヤ マ サ シ ョ ウ 油				(1)	
大 日 本 製 薬	4				1	山 之 内 製 薬	2			(1)	
中 外 製 薬	1		2	(1)		吉 富 製 薬	1				3
帝 国 薬 器 製 薬	1					和 光 純 薬 工 業					
() 内の数字は大学院修士課程修了予定者						合 計	55	2	8	10(12)	48

(2) その他

	病院薬局	病院研修生	薬 局		大学職員	大 学 院		公 務 員	
	F	F	M	F	F	M	F	M	F
貝 塚 サ ナ ト リ ウ ム	1								
聖 隷 浜 松 病 院	1								
播 磨 病 院	1								
ベルランド総合病院	1								
枚 岡 病 院	1								
関 西 医 科 大 学 附 属 病 院		1							
神 薬 堂			1						
ステーションファーマシー				1					
中 山 薬 局				1					
名古屋市薬剤師会調剤センター				1					
川 崎 医 科 大 学	1				1				
大 阪 薬 科 大 学						15	4		
神 戸 大 学 (理 学)						1			
徳 島 大 学 (薬 学)						5			
富 山 医 科 薬 科 大 学						1			
名 古 屋 大 学 (農 学)						1			
京 都 府								1	1
神 戸 市								1	
自 衛 隊									1
奈 良 県									1
合 計	6	1	1	3	1	23	4	2	3

三年次生の諸君へ

本年度4年次生の就職戦線も山場を越えましたが、現3年次生も今から就職に対する確固たる意識、心構えを持つべきです。そのスタートとして本館入口左横の就職資料室で各企業、病院ファイルにより最新情報（就職部で適宜更新しています）を得るとともに先輩たちの就職実体験談を満載した就職試験報告書をぜひ一読することをお勧めします。その内容は資本金、従業員数、初任給、賞与、休暇等規模、条件面の他、筆記試験（一般教養、語学、専門、作文、適性検査）や面接試験（形式、面接者、所要時間、質問内容）、先輩へのアドバイスとなっており必ず今後の就職活動に参考になりますので大いに利用して下さい。





昭和62年度法人決算について

事務局長 吉野 幸夫

去る5月30日の理事会および評議員会において、学校法人大阪薬科大学の昭和62年度の決算が審議のうえ承認されたので、消費収支計算書の総括表によって、その概要を説明することとしたい。

消費収支の概要について

消費収支計算書は、当該年度の消費収支および消費支出の内容と均衡の状態を明らかにするためのもので、昭和62年度は、別表のとおりである。

昭和62年度においては、帰属収入の合計は、予算に比して1億934万円余の増であり、消費支出の合計は、予算に比して1億733万円余の減であり、従って、決算は予算に対しては形式的には2億1668万円余のプラス勘定となり、基本金組入を予算より2億1898万円余増で行うことができた。

ただし、『当年度消費支出超過額』——当年度（昭和62年度）の赤字——は、1億2658万円余であり、この赤字は、『前年度繰越消費収入超過額』——前年度（昭和61年度）からの繰越金——の4億1879万円余から取り崩す結果となり、『翌年度繰越収入超過額』——翌年度（昭和63年度）への繰越金——は、2億9220万円余となった。

消費収支の内容について

昭和62年度における収入については、予算編成時に懸念したように、国からの補助金は1783万円余の減、資産運用収入は2710万円余の減となったが、学生納付金その他の科目においては、それぞれ予算を上廻る収入があったので、前記のように予算に比して相当額の増となったのであり、また昭和62年度における支出については、人件費に3593万円余の支出残があり、教育研究経費に4670万円の支出残があるが、教育研究経費の支出残は、主として建物の計画的補修の遅延によるものである。

基本金への組入について

上記のような収入・支出の状況にかんがみ、理事会および評議員会においては、昭和62年度決算におけるプラス勘定は、有効に留保することが肝要であるとして、前年度決算の場合と同様に、本学の将来計画に関連して予想される校地の取得、校舎の建築などの実現に備えるため、3億円を計画的に基本金に組み入れることを決定した。

従って、この決定により、『基本金組入合計』の決算額4億1898万円余のうち、3億円は計画的組入であり、その余の1億1898万円余は一般的組入ということになる。

消費収支計算書総括表

〔昭和62年4月1日から
昭和63年3月31日まで〕

消費収入の部				単位円
科 目	予 算	決 算	差 異	
学 生 納 付 金	1,122,800,000	1,236,400,000	△ 113,600,000	
手 数 料	67,650,000	88,922,150	△ 21,272,150	
寄 付 金	0	13,554,560	△ 13,554,560	
補 助 金	391,600,000	373,760,046	17,839,954	
資 産 運 用 収 入	150,000,000	122,892,456	27,107,544	
事 業 収 入	17,090,000	18,765,408	△ 1,675,408	
雑 収 入	16,160,000	20,355,030	△ 4,195,030	
帰 属 収 入 合 計	1,765,300,000	1,874,649,650	△ 109,349,650	
基 本 金 組 入 額 合 計	△ 200,000,000	△ 418,980,215	218,980,215	
消 費 収 入 の 部 合 計	1,565,300,000	1,455,669,435	109,630,565	

消費支出の部				単位円
科 目	予 算	決 算	差 異	
人 件 費	995,030,000	959,098,524	35,931,476	
教 育 研 究 経 費	551,210,000	504,509,725	46,700,275	
管 理 経 費	91,400,000	91,652,352	△ 252,352	
借 入 金 等 利 息	18,750,000	18,746,082	3,918	
資 産 処 分 差 額	3,200,000	8,250,700	△ 5,050,700	
予 備 費	30,000,000	0	30,000,000	
消 費 支 出 の 部 合 計	1,689,590,000	1,582,257,383	107,332,617	
当 年 度 消 費 支 出 超 過 額	124,290,000	126,587,948		
前 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	418,797,812	418,797,812		
翌 年 度 繰 越 消 費 収 入 超 過 額	294,507,812	292,209,864		

石田寿昌助教授受賞

石田寿昌先生は、日本薬学会より栄誉ある昭和63年度日本薬学会奨励賞を、昨年4月4日に受けられました。当日行われた日本薬学会(第108年会)受賞者講演会で、先生は受賞研究「トリプトファンの生体分子との相互作用に関する構造化学的研究」について講演され、多くの会員に感銘を与えられました。



■研究室だより



第一生化学教室

教授 池田 潔

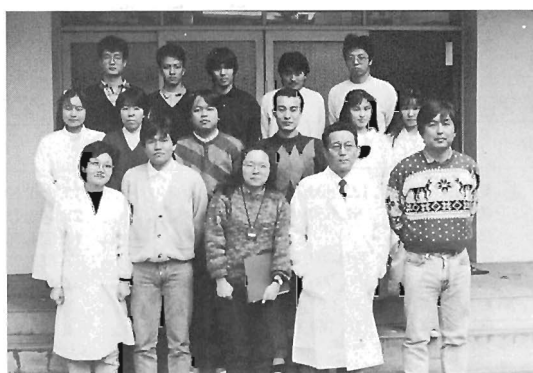
本教室を担当させていただいて既に5年近くになる。当初心配した研究設備は、おかげさまで、共同利用のものを含めると並の大学以上?に整備されてきた。教室の人数も増加し、本年度においては、私を含め井上君と銘田さんの職員3人、大学院修士課程の学生4人、4回生8人が狭い研究室でひしめき合いながら日夜研究?に励んでいる。しかし一方で、そのわりに成果が出ていないじゃないかとの御批判が気になる今日この頃である。

我々の研究課題は細胞膜と相互作用する種々のタンパク質の構造と機能の解明である。しかし実際には、種々のヘビ毒・牛の膀胱・ヒトデやバクテリアからリン脂質の加水分解酵素を精製し、そのミクロ次元での触媒機構を論じているかと思えば、ヘビ(特にコブラ)毒から細胞毒タンパク質を単離し、アミノ酸配列を決定してみたり、またアルツハイマー病と関係するのではないかといってはヘビ毒やマウスの顎下腺から神経成長因子の構造を決定したりしている。また一方では、いま流行の細胞培養や免疫学的なある意味ではマクロな技術を用いた実験をも行なっている。初めて研究室に入ってきた4回生や外部の人は研究室に対して多少分裂症的なイメージを抱かれるかも知れないが、それぞれの実験は互いに有機的に結び付いていることをご理解して頂きたい。

4回生特別実習生の諸君のうちで、薬剤師国家試験

にからむカリキュラムに従った勉強とある種の創造的・芸術的・趣味的?な研究生生活とのギャップを埋めることもなく卒業する人もあり残念に思っている。

これまで、院生や4回生の授業の合間をぬって週一回のセミナー(文献紹介や実験の経過報告)を行ってきたが、さらに本年度からは、酵素化学やタンパク質化学、細胞あるいは分子遺伝学(バイオテクノロジー)に関する院生や4回生の自主的な勉強会が始まった。このような各自の積極性は大切に行きたいと考えている。



前列左から莫院生、今田院生、銘田副手、池田教授、井上助手、二段目左3人目から藤井院生、小田院生、他は特別実習生



第23回大薬祭をかえりみて

学生部長 望 月 伸 三 郎

第23回、大薬祭は体育祭を含めて、先生方の指導と学生諸君の努力によって無事終了することが出来ました。

そこでこの行事をふりかえってみると、問題点として、

1. 今迄の記録がなくて、はじめからやった感じである。その辺に時間と手際のロスがあった。
2. 準備日程とパートの責任を明確にし、徹底すること。
3. 期間を利用した帰省や旅行が多いと思われる。
4. プロコンサートは費用の点で問題がある。最近、各大学では手造りの学園祭としてプロを排除する方向でやっているの、少し遅れている気がした。
5. 一気飲みがあった。教員の出席が欲しい。企画の貧困さであろうか、以上の点を改善したい。

しかし、良い点も列挙すると

1. 模擬店をテントにしたので準備の騒音、材料の繁雑さが避けられた。
2. 時間を夜8時までにしたので近所からの苦情がなかった。
3. 後片付けの協力がスムーズに行われた。



全般的に盛り上りに乏しいもので前年度の踏襲に一杯という感じであった。ここで大学当局にお願いしたいことは大薬祭に使える場所が学生会館と体育館だけである。例外としてお化け屋敷の男子ロッカー、映画の26教室であるが、これでは写真、絵画、華道の展示は無理であるし、前には漢医研の生薬展示と使用説明もあったがその場所もない。各特別実習の紹介などがあっても良いと思われる。とにかく限られた使用場所があまりにも小さく狭い。これで大学祭を盛り上げると言う批判は学生がかわいそうである。盛り上らないから学生は旅行するといった悪循環が生れているように思える。教育のカリキュラムも模倣から創造と体験へと変りつつある時、大学祭は創造と体験を実践する場として大切な機会である。知識を深めることも必要であるが、文化として幅広い教養と個性の尊重を大切に包含出来る教育であってほしいと願っています。その意味で大学当局は学生に充分なスペースを用意して下さい。以上大薬祭より……

昭和63年度公開教育講座

薬学系大学を卒業した社会人を対象として最新の医学、薬学の知識、情報を与え国民の保健、健康増進に役立つものと考え昭和58年度より、公開教育講座を発足させた。本講座も回を重ねて本年度は第6回目の公開教育講座が開催された。昨年度と同様土曜日ごととし、各界の権威をお招きするとともに本学の教授陣も参加して下記のとおり行われた。受講者の関心も極めて高く、社会人教育・生涯教育として多大の期待が寄せられている。

8月20日(土)

“X線構造解析法とコンピューターグラフィックス
によって分子を見る”

大阪薬科大学 教授 井上 正敏
生薬学領域の最近の進歩
九州大学薬学部 教授 西岡 五夫

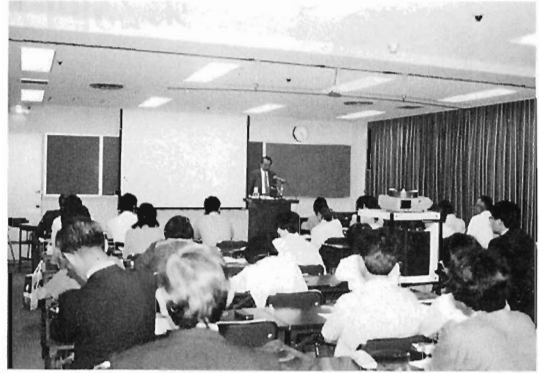
8月27日(土)

抗癌剤の現状と将来

帝京大学生物工学研究センター教授
京都大学化学研究所抗癌医薬開発部門
教授(客員) 千原 呉郎

神経難病の現状

国立療養所宇多野病院 院長 西谷 裕



9月3日(土)

医薬品に関する製薬業者の製造物責任

大日本製薬(株) 顧問 足立 勝
脳の情報伝達及び制御の障害と薬
近畿大学薬学部 教授
京都大学 名誉教授 高木 博司

9月10日(土)

医薬品の進歩と Drug Delivery System (DDS)

神戸大学 教授
医学部附属病院薬剤部長 奥村 勝彦
血液浄化と尿毒症物質
大阪薬科大学 教授 小延 鑑一

昭和64年度 学部入学試験要項

募集人員 薬学部 (薬学科120名 計240名
製薬学科120名)
出願期間 昭和64年1月11日(水)~2月2日(木)
(必着)
試験期日 昭和64年2月10日(金)9時より
合格発表 昭和64年2月18日(土)
入学検定料 25,000円
試験場 本学
代々木ゼミナール大阪校
(地下鉄御堂筋線「江坂」駅, 下車
約2分)
入学手続 昭和64年2月28日まで(1次)
昭和64年3月23日まで(2次)

昭和64年度 大学院博士前期(修士)課程 入学試験

昭和64年度大学院博士前期(修士)課程の入学試験は下記のとおりであった。

願書受付期間 9月19日~10月1日
学力試験 10月8日
合格発表 10月14日
募集人員 約16名
志願者 男子21名(学外2名)
女子5名 合計26名
合格者 男子15名
女子4名 合計19名

特別講演会

I 昭和61年

I-1

演題： Jasmonic acid, a Novel Type of Endogenous
Cyclopentanoidal Plant Growth Regulators and
General Distribution in the Plant Kingdom

演者： Prof. Klaus Schreiber
東ドイツ科学アカデミー生物科学国内委員会
委員長

日時： 昭和61年9月10日（水） 14:00~15:00

場所： 大阪薬科大学大会議室

共催： 有機合成化学協会関西支部
日本薬学会近畿支部

I-2

演題： Chemistry and Biology of Antibiotic Biosynthesis

演者： Prof. Heinz G. Floss
Ohio State University

日時： 昭和61年10月22日（水） 14:30~15:30

場所： 大阪薬科大学21教室

主催： 大阪薬科大学

I-3

演題： Selective Acetylation of the Nucleotide and
Nucleoside by Acylimidazole and the Reaction
Mechanism

演者： Prof. Wang Yu（汪猷）
上海有機化学研究所名誉所長

日時： 昭和61年10月23日（木） 14:30~15:30

場所： 大阪薬科大学21教室

主催： 日本薬学会近畿支部

I-4

演題： The Design and Synthesis of Organ Imaging
Agents

演者： Prof. Raymond E. Counsell
Department of Pharmacology
University of Michigan, U. S. A.

日時： 昭和61年11月26日（水） 14:30~15:30

場所： 大阪薬科大学21教室

主催： 日本薬学会近畿支部

I-5

演題： The Search of New Analogs of Polyamines as

Potential Anticancer Drugs

演者： Dr. Michel Hubert-Habart

キューリー研究所主席研究員， フランス

日時： 昭和61年12月3日（水） 14:30~15:30

場所： 大阪薬科大学21教室

主催： 大阪薬科大学

I-6

演題： 抗癌剤の現状と将来
—レンチナンを中心として—

演者： 千原呉郎博士
国立ガンセンター 化学療法部室長

日時： 昭和61年12月11日（水） 14:00~15:30

場所： 大阪薬科大学21教室

主催： 大阪薬科大学

II 昭和62年

II-1

演題： A Brief Account of Some of the Chemistry on
the Natural Products Carried out in China

演者： Prof. Hsing Chi-Yi（邢其毅）
北京大学化学科

日時： 昭和62年9月28日（月） 16:00~17:00

場所： 大阪薬科大学21教室

主催： 日本薬学会近畿支部

III 昭和63年

III-1

演題： Naturally Occurring Anticancer Agents

演者： Prof. Bilge Sener
Faculty of Pharmacy

Gazi University

Ankara, Turkey

日時： 昭和63年6月6日（月） 15:00~16:00

場所： 大阪薬科大学大会議室

主催： 大阪薬科大学

共催： 日本薬学会近畿支部

III-2

演題： Biologically Active Compounds from Higher

Fungi

演者：Prof.W.Steglich

Institut für Organische Chemie und Biochemie
der Universität Bonn

日時：昭和63年6月9日（木）15：00～16：00

場所：大阪薬科大学21教室

主催：大阪薬科大学

Ⅲ—3

演題：Studies with Thujone—A Chiral Synthon for the
Synthesis of Natural Products and Related Bio-
logically Active Compounds

演者：Prof.James P.Kutney

Department of Chemistry
University of British Columbia, Canada

日時：昭和63年6月10日（金）15：00～16：00

場所：大阪薬科大学21教室

主催：日本薬学会近畿支部

Ⅲ—4

演題：Asymmetric Epoxidation of Allylic Alcohol by
Modified Sharpless Reagent and Application to
Synthesis of Some Natural Products

演者：Prof.Wei-Shan Zhou（周維善）

日時：昭和63年6月13日（月）15：00～16：00

場所：大阪薬科大学21教室

主催：大阪薬科大学

Ⅲ—5

演題：中国産香茶菜属植物の新ジテルペノイドに関
する研究

演者：孫漢 助教

中国科学院昆明植物研究所

日時：昭和63年9月20日（火）15：30～16：30

場所：大阪薬科大学大会議室

主催：大阪薬科大学

Ⅲ—6

演題：Possible Mechanisms for the Enhancement of
Rectal Absorption

演者：Dr. A. G. de Boer

Senior Faculty Member
Center for Bio-pharmaceutical Sciences
Leiden University, The Netherlands

日時：昭和63年11月4日（金）15：30～17：00

場所：大阪薬科大学21教室

主催：大阪薬科大学

Ⅲ—7

演題：Enantioselective Alkaloid Synthesis

演者：Prof.Ekkehard Winterfeldt

University of Hannover

West Germany

日時：昭和63年11月12日（土）15：00～16：00

場所：大阪薬科大学21教室

主催：日本薬学会近畿支部

Ⅲ—8

演題：Synthesis, Stereochemistry, and Ring-Chain
Tautomerism of Condensed-Skeleton Saturated
Heterocycles, Potential Pharmacons

演者：Prof. G. Bernáth

University Medical School
Szeged, Hungary

日時：昭和63年11月21日（月）15：00～16：00

場所：大阪薬科大学大会議室

主催：日本薬学会近畿支部

Ⅲ—9

演題：The Synthesis and Properties of Bistrifluoro-
methyl Substituted Crysanthemic Acids and
Pyrethroids

演者：Prof. Michael Hanack

University of Tübingen
West Germany

日時：昭和63年12月7日（水）15：00～16：00

場所：大阪薬科大学21教室

主催：日本薬学会近畿支部

昭和64年度大学院博士後期課程 学生募集要項

1. 募集人員 5名

2. 募集専攻科目

薬学専攻；薬化学，生薬学，薬品製造学，
衛生化学，生化学，微生物学，薬理学，
薬理学，薬品分析学，薬品物理化学

3. 出願期間，場所

昭和64年2月15日（水）2月20日（月），本
学教務課

4. 学力試験日，場所

昭和64年3月8日（水），本学

5. 合格者発表

昭和64年3月14日（火）

◇出願に関する問合せは本学教務課へ

図書館だより

図書館では、入学時に「図書館利用案内」を全員に配布して図書館の紹介を行っています。今回は新しいお知らせをすともにも図書館をあまり利用しない人を対象に簡単な紹介をしたいと思います。

◎資料の配置について

玄関にはその日の新聞を掛けてあります。また、薬学および関連分野の業界紙なども見ることができます。

2階の閲覧室には自然科学系の図書が約6千冊あります。これらの図書はさらに多くの学生に利用してもらい、勉学、情報収集に役立てて欲しいと思います。

また、この閲覧室の入口前には「旅」、「スクリーン」、「文芸春秋」など色々な雑誌を配置しています。図書・雑誌ともすべて貸出を行っています。

階段を上がると、3階閲覧室・書庫へと続きます。書庫には、文学・歴史などの読物もありますので一度のぞいてみて下さい。必ず、続てみたいと思う本があるはず。大いに利用して下さい。

図書館にどのような本があるか知りたい場合には、入口のカード式目録で調べて下さい。また、新しく購入した本は、3ヶ月ごとに「増加図書目録」にまとめて発行していますので必要な人は申し出て下さい。

◎A V資料・機器について

何度もお知らせしていますように、本年度から図書館においてA V資料を購入することになりました。資料は3階閲覧室のA V架に配置しています。ここには機器も設置していますので、希望があれば館内での視聴も受け付けます。もちろん貸出も行っています。

新しく購入したA V資料は「増加図書目録」に記載してお知らせしています。

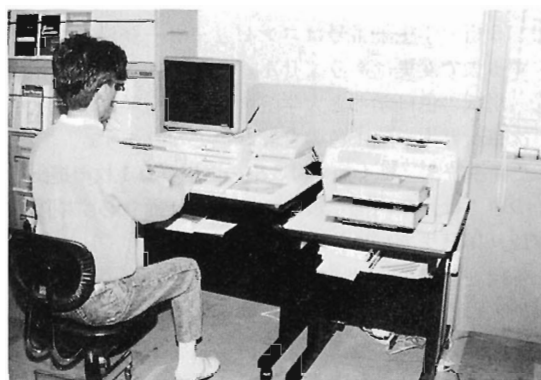


◎オンライン情報検索について

学部生にはなじみが薄いと思いますが、図書館では外部データ・ベースを利用して情報検索を行っています。現在、STN-International (CASが中心、その他多数のファイルあり)とJOIS-II, JOIS-F (日本科学技術情報センター提供)を利用してあります。

STN-Internationalは朝10時迄に利用すると、料金が9割引(CASのみ)になりますので、この時間での利用をおすすめします。

今後、大阪大学大型計算機センターのオンライン・サービスを受けることを予定しています。一般の商業ベースのものより桁違いに安い料金で利用できるからです。



◎図書館利用時のマナーについて

ここでは一般的な注意のみにしたいと思います。

まず、当館には、本を置いていない自習室はありませんので入館する時はかばん・袋物は持ち込まないようにして下さい。筆記具など必要な物以外は全て玄関に備えつけてあるロッカーに入れて下さい。

玄関に入れば静かにして下さい。館内には常に、勉強したり読書をしている人がいます。頭を使っている時は普段より音に敏感になるものです。お互いに気をつけましょう。

自分が使った本は必ず元あった所に戻して下さい。決められた場所にあるからこそ探し出すことができるのです。ひとたび違う場所に置くと必要な時に出てこなくて役に立たなくなります。

今一度「図書館利用案内」に目を通して下さい。

◎ひとこと

図書館では夏は冷房、冬は暖房と快適な環境を用意しています。勉強するもよし、趣味の世界に浸るもよし、より多くの人々の来館を期待しています。

学生課だより

☆学生課発行各種証明書について

学生課では、事務の合理化を目指して昭和62年度よりコンピューター処理をスタートしました。来年度から在学証明書に続いて学生証も一括データ処理する関係で、学生証の様式・有効期限が以下のとおり変更されます。

- ① 従来2年間有効の学生証は1年毎の更新が義務づけられ、進級や留年に関係なく、毎年4月に全学生に交付されます。
- ② 従来手書きの箇所(×印)はすべて機械印字となります。
- ③ *1、*2については新学生証に新たに印字されます。
- ④ 5桁の学生証番号はコンピューター登録され卒業するまで変更はありません。
- ⑤ 用紙の色は学部と大学院の2色から学部4色(年次毎)と大学院1色の合計5色となります。

更新手続き(縦4cm×横3cmの白黒写真1枚の提出)については、学内掲示板等のお知らせ通り必ず期限内(12月16日まで)に終えて下さい。

各種証明書の受付・発行は日常残務処理の関係上、原則として平日(月～金)は午後4時、土曜日は午前11時30分までになっています。また学生課では学生諸君とのコンタクトを重視していますが、窓口業務の昼休みは11時30分から12時30分までですので、緊急時以

外は出入りをなるべく遠慮して下さい。御協力をお願いします。なお、各種証明書の申し込みや受け取りの際には学生証の提示を義務づけていますので、常時携帯を心がけて下さい。

☆日本育英会奨学金受給者へ

現在、全学生の約18%にあたる219人(大学院生を含む)が日本育英会の恩恵に浴しています。学生課では折にふれ奨学生の指導に当たっていますが、奨学金の趣旨《学業人物ともに優れており、経済的理由により修学に困難がある学生に対し、学資の貸与等を行う》に反して年々、成績不良による留年者が増加しつつあります。

これらの不祥事が重なると奨学金の停止あるいは廃止処分となったり、次年度以降の本学に対する奨学生の推薦内示数の減少につながる場合もありますので、奨学生は一層勉学に奮励努力するよう切望します。(これは奨学生の最大の義務です)

また、奨学金は毎月奨学生本人の口座直接振込み方式で交付されます。その受領資格の確認を年3回(5月・9月・12月)行なっていますが、毎回未確認者(例えば63年9月は31人)が多く奨学事務が停滞しています。

奨学金関係の掲示板に常に注意して、学内締め切り日に関係なく早期に手続きを完了するようにして下さい。

身分証明書 No. XXXXX

写真貼付
 ・上半身脱帽
 ・正 面
 ・4cm×3cm白黒
 ・最近3ヶ月以内
 ・に撮影したもの

フリガナ XXXXXXXXXXXXXXXX
 氏名 XXXXXXXXXX
 XX年XX月XX日生

上記の者は新学部製薬学科
 学生であることを証明する。
 XX年XX月XX日発行
 大阪府松原市河合2-10-65
 本2(0723)32-1015
 大阪薬科大学学務課 藤田 榮一

現住所	XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX XXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXXX										
生商						大学					
学籍	1	2	3	4	5	学籍番号	XXXX				
学籍	6	7	8	9	10	定期健診受診券					

XX年XX月XX日まで有効

通学区	～	理由()
～	～	理由()
～	～	理由()

通学定期乗車券発行控

発給年月日	期間	発行額	記 事
	6月		
	6月		
	6月		

学生寮だより

—学生寮施設の拡充と改修について—

今年の夏休み中に学生寮全館にわたる水道工事が行われ、給配水管、水槽、揚水ポンプなどを取替えた結果、水質が向上し、水の出が良くなり、大いに改善されました。

また浴室天井のペンキ塗替え、各室(36室)の窓と

ベッドのカーテンを取替えた結果、寮全体が明るくなりました。昨年秋には長年の懸案であった冷暖房用エアコンが食堂、娛樂室並びに全室に設置されました。(料金自己負担方式)このように寮生81名全員がより快適な環境のもとで寮生活を満喫できるように、年々着実に整備されています。

保健室だより

現在保健室では単に病人看護や傷害応急処置にとどまらず「健康教育」の積極的な推進に主眼をおいています。つまり現症状の要医療学生や将来成人病への進行が予想される学生の早期発見、生涯にわたる調和のとれた心身の健康の維持、増進をめざしています。日頃からの適度な運動（運動不足は緩慢な自殺である）、バランスのとれた食事（腹八分目）、充分な休養（睡眠）を心がけ自分に合った生活のリズムを大切にすることです。要は「常に自分の健康は自分で守る」という意識をもって自分の身体のチェックを怠らないことです。そのためにも春の定期健康診断を大いに利用することを希望します。63年度の受診率は下表のとおり約56%で特に2、3年次生は極めて低率です。

また、より充実した豊かな学生生活のために各アドバイザーや学生部（課）をはじめ、保健室においても健康問題はもちろんのこと、学業、進路、対人関係、心理、性格上等の悩みや心配事があれば、一人でも友人と一緒にでも結構ですので気軽に相談に来て下さい。（相談内容については固く秘密は守られます）

扉はいつも開いています。皆さんがノックさえすれば……

腰痛について

近代化、高齢化社会の進行に伴い、腰痛で悩む人がますます増加し、「現代病」といわれています。

（原因・症状）

- ① 脊柱への過度の負荷（ストレス）による疼痛
- ② 「ぎっくり腰」による耐えがたい痛み
- ③ 内臓疾患（特に腎臓、尿管、骨盤内臓器の病変）による安静時でもなお続く痛み
- ④ 脊髄腫瘍による神経性の腰痛
- ⑤ カルシウム摂取不足から骨がもろくなる「骨粗し

よう症」（高齢女性の腰痛の大部分はこれであり最近注目されている）

- ⑥ 婦人科的病気（子宮筋腫、卵巣のう腫）による腰痛

③～⑥の器質の変化が原因である腰痛は、素人判断・療法は禁物で当然医師の管理下にあるべきですが、日常生活で体験する程度の腰痛は生活様式の適切な改善や簡単な運動により回復します。

〔予防・対策〕

- ① ストレッチ体操（背伸び、腰回旋）や軽い運動（ジョギング、なわとび）を継続して行なう。
- ② 腰の筋肉や背筋、腹筋を鍛えるスポーツをする。（水中歩行もよい）
- ③ 長時間同じ姿勢で椅子に腰かけない。また自分の身長に合った椅子を使用する。（膝頭と椅子の座席が平行になるのが理想で高すぎても低すぎても腰に負担がかかる）
- ④ 重い物を持ち上げる時は腰をいったん降ろして上体をまっすぐにしてから両足の反動を利用してゆっくり持ち上げる。
- ⑤ 骨の強化（老化防止）のためカルシウム含有量の多い牛乳、海藻、小魚などを多くとる。
- ⑥ 太りすぎの人は体重が腰に負担となっているので減量に心がける。〔標準体重の目安は（身長-100）×0.9であり、これより10kgオーバーの人は肥満といえる〕
- ⑦ 夏季はクーラーによる冷えすぎ（腰の保温）に留意する。
- ⑧ 原則として入浴は毎日ぬるま湯で長目に入り、マッサージをする。
- ⑨ トイレはできれば洋式にするのが望ましい。
- ⑩ 女性の場合ハイヒールでの長時間歩行を避け、スニーカー等を利用する。

昭和63年度定期健康診断受診者（4/11, 5/12, 5/13実施）

	新入生	1年次 留年生	2年次生	3年次生	4年次生	M 1	M 2	D 1	D 2	総計
受診者	263	1	57	30	261	7	13	0	0	652
未受診者	0	20	273	196	5	7	4	1	1	507
合計	263	21	330	246	266	14	17	1	1	1159
受診率(%)	100.0	4.8	17.3	20.3	98.1	50.0	76.5	0.0	0.0	56.3

法人人事

理事長代行就任 (62.11.24) 大村 栄之助
理事長就任 (63.6.20) 岡本 道雄

人事異動

助手発令 (63.10.1)
井川智恵 (第一薬剂学教室)
(63.11.1)
鶴岡浩志 (第二微生物学教室・新採用)
用務員発令 (63.9.1)
喜村留美子 (新採用)
退職 (63.8.31)
佐原 都 (嘱託用務員)

昭和63年度

各部・委員会・委員

(No. 18 (1988.5.19) 掲載以降)
◎は部署の長

実験動物センター	◎森坂 勝昭 (教授)
酒井 清 (教授)	森本 史郎 (教授)
藤田 直 (教授)	池田 潔 (教授)
保坂 康弘 (教授)	玄番 宗一 (助教授)
稲森 善彦 (助教授)	安田 正秀 (講師)
動物実験委員会	◎森坂 勝昭 (教授)
酒井 清 (教授)	森本 史郎 (教授)
藤田 直 (教授)	池田 潔 (教授)
保坂 康弘 (教授)	玄番 宗一 (助教授)
稲森 善彦 (助教授)	松村 瑛子 (助教授)
安田 正秀 (講師)	森本 武司 (庶務課長)
組換えDNA実験安全委員会	◎保坂 康弘 (教授)
森坂 勝昭 (教授)	堀田 輝明 (教授)
森本 史郎 (教授)	田中 千秋 (教授)
池田 潔 (教授)	稲森 善彦 (助教授)
石田 寿昌 (助教授)	森本 武司 (庶務課長)

後期行事予定表

[1989年]

1月9日(月) 授業再開 (1~3年次生)
9日(月) 後期定期試験 (4年次生)
11日(水)
14日(土) 後期授業終了 (1~3年次生)
17日(火) 後期定期試験 (1~3年次生)
28日(土)
24日(火) 再試験 (4年次生)
30日(月)
2月8日(水) 第1次卒業生発表
10日(金) 昭和64年度学部入学試験
14日(火) 特別再試験 (4年次生)
18日(土)
18日(土) 学部入学試験合格者発表
20日(月) 大学院修士論文提出締切
20日(月) 再試験 (1~3年次生)
3月3日(金)
2月27日(月) 第2次卒業生発表
3月7日(火) 第13回大学院修士論文発表会
3月13日(月) 大学院修士課程修了者発表
14日(火) 進級者発表, 再試験結果発表
20日(月) 第36回学部卒業式並びに第13回大学院修了式



学部入学試験合格者発表